

平成 24 年 3 月期 環境報告(要約版)

会社名: 東邦ホールディングス株式会社

経営責任者名: 代表取締役社長 濱田 矩男

作成日: 平成 25 年 1 月 23 日

問合せ先: 経営企画室 次長 吉井義瑞

会社 URL: <http://www.tohohd.co.jp/>

当社の平成 24 年 3 月期における主な環境配慮の状況は、以下のとおりです。

I. 基本的事項

対象組織の範囲 ^(注1)	☒ 連結	☐ 単体及び主要な子会社	☐ 単体
捕捉率 ^(注2)		(%)	(%)
範囲の変更の有無	☒ あり	☐ なし	
対象期間 ^(注3)	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日		
期間の変更の有無	☒ あり	☐ なし	

^(注1) 主要な子会社名及び範囲の方針 (－)

^(注2) 捕捉率の算定基準 (－)

^(注3) 財務期間との差異 (－)

II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項

1. 経営責任者の緒言

さらなる医療の充実に力を尽くすとともに、ひとりひとりが環境保全に取り組みます

2. 環境配慮の方針

2010 年度より CSR スローガンとして「ひとりひとりのエコアクト」を掲げている。

当社は、全国各地に事業所を設置し、それぞれ地域に深く根ざした事業を展開している。この地域密着型という強みを活かし、社員ひとりひとりが身近なところから活動を積み重ねることで、環境保全に貢献したいと考えている。

III. 重要な環境課題や戦略に関する事項

1. 重要な環境課題

☒ 気候変動	☐ 資源循環	☐ 生物多様性	☒ 廃棄物削減	☐ 水・大気汚染
☒ エネルギー	☐ 水資源利用	☐ 天然資源投入	☐ 化学物質管理	☐ その他

2. 背景情報

(1)収益獲得機会に関する背景情報

温室効果ガスの削減に努めることで、エネルギー使用に関するコスト削減が可能である。
また、当社の子会社であり、医薬品卸売事業部門の東邦薬品は、省エネ法における特定事業者であるため、遵守していく。

(2)ビジネスリスクに関する背景情報

エネルギー使用量、廃棄物の増加によるコスト増。

3. ビジョン及び戦略

CSR ビジョン

- 1) 独創的な価値創造により、患者さま・顧客・社員・社会・株主との信頼と共感を構築する
- 2) 社員参加型の社会貢献活動を、日本・世界へと展開する
- 3) ひとりひとりが、いのち・自然・地球を慈しみ、真摯に環境問題に取り組む
- 4) CSR の観点から、企業価値の向上を追求し、説明責任を果たす
- 5) 経済・社会・環境における持続可能性を追求する

IV. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況

重要な環境課題	気候変動(温室効果ガス)			
当年度における計画及び取組状況	・全国的な節電の取り組み ・低公害車の随時導入			
環境負荷量(総量)	計画 なし ()	実績 CO2 35,434 (t)	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) なし ()
環境負荷量(原単位)	計画 なし ()	実績 未報告 ()	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) なし ()
財務影響等	なし			
結果の分析・評価及び次年度における取組	物流センターの新設や、経営統合等があったが、節電の取り組み等で、前年度に比べて、わずかではあるが、CO2 排出量が削減した。 今後見える化を進め、更なる削減に努めていく。			

(注5) 中期目標の年度 (-)

重要な環境課題	エネルギー
---------	-------

当年度における計画及び取組状況	・全国的な節電の取り組み ・低公害車の随時導入			
環境負荷量(総量)	計画 なし ()	実績 未報告 ()	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) なし ()
環境負荷量(原単位)	計画 なし ()	実績 未報告 ()	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) なし ()
財務影響等	なし			
結果の分析・評価及び次年度における取組	物流センターの新設や、経営統合等があったが、節電の取り組み等で、前年度に比べて、わずかではあるが、エネルギー使用量が削減した。 今後見える化を進め、更なる削減に努めていく。			

(注5) 中期目標の年度 (-)

重要な環境課題	廃棄物削減			
当年度における計画及び取組状況	物流センターにおける古紙回収			
環境負荷量(総量)	計画 なし ()	実績 特別監理産業廃棄物 0.6t 産業廃棄物 66t 古紙回収 1227t	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) なし ()
環境負荷量(原単位)	計画 なし ()	実績 未報告 ()	☐ 第三者審査	中期目標 ^(注5) なし ()
財務影響等	なし			
結果の分析・評価及び次年度における取組	物流センターにおける古紙回収量は前年度に比べ 3.3%増加となったが、産業廃棄物総量が前年比 38.1%増の結果となった。 今後、削減に努めていく。			

(注5) 中期目標の年度 (-)

V. 組織体制及びガバナンスの状況

1. 環境経営の組織体制等

-

2. 環境に関する規制等への遵守状況

違反の事実はない

VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況

1. グリーン調達の実施状況

事務用品などの消耗品の購入に「カウネット」を利用。グリーン購入法適用商品や環境負荷の低い商品を積極的に購入。

2011 年度の購入数量構成比は、環境配慮商品が 42.4%

2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減

—

VII. その他の事項

(以下については、環境報告書等を参照することも可能です。ただし、環境報告を作成していない場合や当年度に新たな事象の発生や変更があった場合には、該当する事項を記載して下さい。)

1. 組織体制及びガバナンスの状況

(1) 環境監査及び環境教育

環境教育に特化した社員向け情報誌を発行し、社員に対して自然エネルギーの啓発を実施。

(2) 災害事故等への対応状況

災害対策委員会を発足し、定期的に委員会を開催。

将来予想される災害等に関して、グループ会社が一丸となって、危機管理に取り組むために、これまでのものを見直し「共創未来グループ災害対策マニュアル」を作成。

また、定期的に社員に対して「安否確認訓練」を実施。

災害時対応用の固定電話(災害時優先電話)や衛星電話の設置、非常用自家発電機の設置を行っている。

2. ステークホルダーへの対応状況

—

3. 社会的取組の状況

http://www.tohohd.co.jp/csr/03/2012/CSR2012_9.pdf

http://www.tohohd.co.jp/csr/03/2012/CSR2012_10.pdf

http://www.tohohd.co.jp/csr/03/2012/CSR2012_11.pdf

4. 後発事象

—

【補足情報】

(以下において、記載をしない項目は削除してください。斜体文字は記載例です。)

(環境負荷量の時系列一覧)

KPI 等	09 年度	10 年度	11 年度	備考
温室効果ガス排出量	27,851(t)	35,538(t)	35,434(t)	* 1
	()	()	()	* 2
	()	()	()	* 3

(数値情報に関する補足情報)

* 1 算定方法(算定式、係数等)

温対法に基づく。

(法令等により国に報告した環境負荷量)

会社名	温室効果ガス排出量	備考
東邦薬品株式会社	6,582t	* 1、2

※算定基準(算定式、係数等)が「数値情報に関する補足情報」と相違する場合 (その内容)

* 1 根拠法令等 温対法

* 2 算定方法(算定式、係数等)

温対法に基づく

(環境報告書の関連ページ一覧表)

環境報告書等の有無	☒ あり	☐ 予定あり ^{注 4}	☐ なし
-----------	--	--	-----------------------------

(注 4) 環境報告書等の策定予定年月 (年 月)

環境報告書等の名称(CSR 報告書 URL: <http://www.tohohd.co.jp/csr/03/index.html>)

環境報告(要約版)の記載項目	該当 ページ	環境報告(要約版)の記載項目	該当 ページ
I. 基本的事項	3	V. 組織体制及びガバナンスの状況	
II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項		1. 環境経営の組織体制等	-
1. 経営責任者の緒言	3~4	2. 環境に関する規制等への遵守状況	-
2. 環境配慮の方針	10~11	VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
III. 重要な環境課題や戦略に関する事項		1. グリーン調達の実施状況	27

1. 重要な環境課題	22～27
2. 背景情報	24～27
3. ビジョン及び戦略	9
IV. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況	
1. 重要な環境課題(気候変動)	25
2. 重要な環境課題(エネルギー)	25～26
3. 重要な環境課題(廃棄物削減)	27

2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減	－
VII. その他の事項	
1. 組織体制及びガバナンスの状況	－
(1)環境監査及び環境教育	23
(2)災害事故等への対応状況	20
2. ステークホルダーへの対応状況	－
4. 後発事象	－